



11月1日 1日総合 佐久穂小中一貫学校へ

【見学内容】

- ・各学年の授業見学
- ・学校内の見学

【佐久穂小中学校の特徴】

- ・学校(施設)は小学校と中学校で同じ → 右と左で小中分かれている
- ・理科室や保健室は小中共用
- ・小学1年生～小学6年生まで 小学7年生～小学9年生まで
- ・体育館は小学校と中学校で分かれている(校庭も同様)
- ・日常生活での交流が多い(廊下や下駄箱など)



佐久穂小中一貫学校 校長先生との対談会 ～質問内容と校長先生からの回答～

- ①スクールバスや小中学校での時間統一はどうしていますか。
A. SBがたくさんある。広い地域なため、たくさんのSBを活用している。
下校時は、小学生が先に帰り、部活後に中学生が下校するように。
- ②小学生と中学生で交流できるような行事や授業はありますか。
A. 中学生が小学生への読み聞かせや、小中挨拶運動、合同の避難訓練などたくさん行っている。他にも小学生が中学生の文化祭や展示品を見学するなど。
- ③教員の人数はどのような配分ですか。
A. 小学校 担任1人 中学校 担任1人 教科ごと先生が変わる
(乗り入れ授業がある)

佐久穂小中一貫学校5・6年生 アンケート

【アンケート内容】

- ①小学生と中学生が一緒にしている活動はありますか？
- ②みんなが中学生と一緒にしてみたいことはありますか？
- ③校舎内に、小学生と中学生が一緒に使っている教室(場所)はありますか？
- ④小学校、中学校の校舎が一緒に良かったと思うことはありますか？

【アンケート対象者】

佐久穂小中学校 5年1組 5年2組 5年3組
6年1組 6年2組 6年3組

アンケート回答結果

【小中一貫学校の良いところ】

1. 乗り入れ授業をしてもらえる
 - ↳小学6年生が中学校の先生に授業を教えてもらえること
2. 中学校に上がっても友達に会える
3. 兄弟同士で物の貸し借りができる
4. 中学生と小学生で交流ができる
5. 中学生になっても顔見知りが多い(生徒も先生も)
6. 中学生のかっこいい姿が見れる・お手本になる

小学校統合の課題と留意点

【小学校統合の大きな課題】

- ・現状の小学校規模の良さと各校の特性の確保
- ・児童の通学手段の安全の確保
- ・現象校区において小学校が果たしている

地域コミュニティ機能の確保や地域の核としての小学校の存在

【小学校統合の留意点】

- ①小規模校・少人数の良さを継承した学校づくり
- ②通学手段と安全確保のあり方
- ③現校区の地域とのつながり及び
地域コミュニティの核としての小学校の存在
- ④合意形成の重要性、統合の時期

三校共通としての良い点と悪い点

- ・少人数の職員数により、職員1人が受け持つ係が多く、負担が大きい
- ・子供たちが少ない分、個別指導に手が回り、個々のメリットがある
- ・手が入りすぎて、子供達と教師の関係が難しくなることがある
- ・スクールバスの利用による運動不足

新たな学校種の建設

①義務教育学校

1人の校長の下、1つの教職員集団が9年間一貫した教育

②小中一貫型小学校・中学校

それぞれ独立した小・中学校が義務教育学校に準じた形で一貫した教育

建設予定地として各学校メリット・デメリット

【南小】

良 スケート場が近い・徒歩通学の生徒が多い・校庭が広い・広い校舎の確保

悪 駅や役場、郵便局が遠い・冬の寒さが厳しい・校舎が古い

教職員の通勤が遠い(佐久方面)

【北小】

良 駅や役場、郵便局が近い・通学路の安全確保・比較的温暖

悪 敷地が狭い・バス通学の生徒が多い・スケート場が遠い

【中学校】

良 穏やかな気候・駅や役場、郵便局が近い・様々な教室の確保

悪 校舎が古い・バスでの通学は市場坂を通る・通学時間がかかる

教室から特別棟までが遠い・階段が多い

建設予定地として

【南小】

・既存体育館の取り壊し 再利用の可否

・教職員寮等の建設用地の確保

・工事中の仮設校舎設置 完成まで北小

【海ノ口/湊地区】

・私有地の買収、建設買収

・道路、用水路付換え、盛土造成

・農業振興地域の指定解除

【中学校】

・山地の造成工事

・用地買収 建物買収

建設予定地として 【例】

【南小】 バス通学の場合(野辺山・板橋は徒步通学)

- ①平沢～ 約15分
- ②市場・広瀬～ 約10分
- ③海ノ口・海尻方面～ 約20分

【海ノ口/湊地区】 バス通学の場合(海ノ口は徒步通学)

- ①海尻方面～ 約5分
- ②市場・広瀬～ 約10分
- ③板橋～ 約10分
- ④野辺山～ 約15分
- ⑤平沢～ 約30分